



卒園おめでとうございます

本日 18 日は、卒園式。御卒園、おめでとうございます。保護者の皆様にとっても今日のこの日を迎えられたことにお慶びも一入かと存じます。

私に限っていえば、子どもたちとの一緒にいたのはわずか 1 年間でしたが、いつもその成長ぶりに驚かされていました。

本当によく「遊ぶ」年長さんで、それも裸足で走り回っていました。その様子をいつも楽しく見ていました。一輪車、竹馬、トランポリン、フラフープ、駒回し、おはじき、マット、跳び箱、おにごっこ、サッカー、ブロック等々、思う存分遊んでいました。もちろんホールやステージでは年中さんや年少さんも一緒です。その様子を見て驚いたのは、年長さんが小さい子にぶつからないように気を配りながら遊んでいることでした。時には走るコースやその空間を邪魔する年少さんがいても、怒鳴る子は誰一人いません。たぶん、こうしたことが本園の伝統だったのでしょう。異年齢の子どもたちがワイワイガヤガヤ一緒に遊ぶ、いわば

理想的な風景が本園にあります。

年少・年中の子どもたちは、みんなで遊ぶその雰囲気にもまると浸りながら多くのことを学んでいるのだと思います。いつの間にか遊び方が似るのはあたりまえとして、いつの間にか年長の踊っていた「よさこい」も踊るようになっていました。年長の歌もいつの間にか覚えて口ずさむようにもなっていました。

遊びの時間が終わるとき「お話をします。座ってください。お片付けの時間です～」とアナウンスが入ると、即座にホール全体が静かになります。正座している子もいます。この切り替えは見事で、これも園の誇るべき、まさに伝統文化だと思います。これなら小学校に行っても、きっと先生のお話を聞ける子どもになるでしょう。

その他驚いたことは、みんなの絵が実にいい感じで描かれていることでした。これも本園の誇るべき文化のひとつだと思います。

歌や器楽演奏に取り組んでいたことも嬉しいことのひとつでした。特に本園には「園歌」があります。「園歌」のいいところは、園歌を忘れずに歌うことができれば、何年たっても何十年たっても、本園にいた往時を思い出すことができることです。それもみんなで一緒に、あるいは世代を超えて思い出すことができることではないでしょうか。

一方、本園の運営は、PTA の皆さんの御支援・御助力がなければ、とうてい回りませんでした。「いもほり」「カレー作り」「お月見の集い」「ゲームコーナー」「もちつき」「節分の集い」「人形劇」など、延べ 70 名近くの方にお手伝いいただきました。また、親子ふれあいデー、公開保育、お誕生日会、参観日、懇談会など来園していただく機会がたくさんありましたが、いつも多数のお越しをいただきました。心から御礼申しあげます。

「後伸びする子」は本園のテーマです。果たして本園の子どもたちは、将来どんな若者になっていくのでしょうか。本当に楽しみです。

改めて「卒園、おめでとうございます」。